

H21.3.17現在

スラッシュ雪崩監視対応
(平成21年3月13～14日)に関する報告

国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所

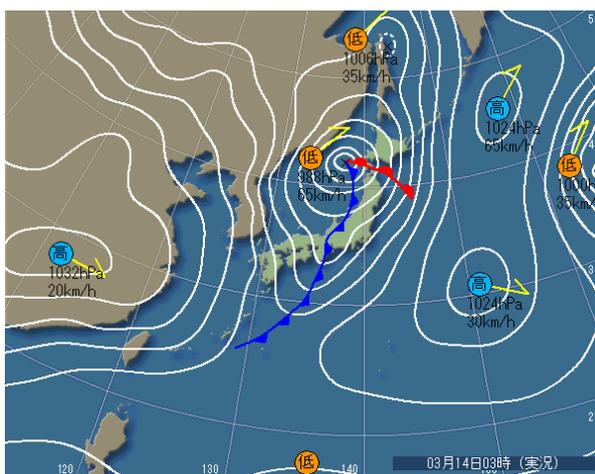
※ 本資料における数値については、平成21年3月17日現在の速報値であり、今後修正される可能性があります。

1. 概要

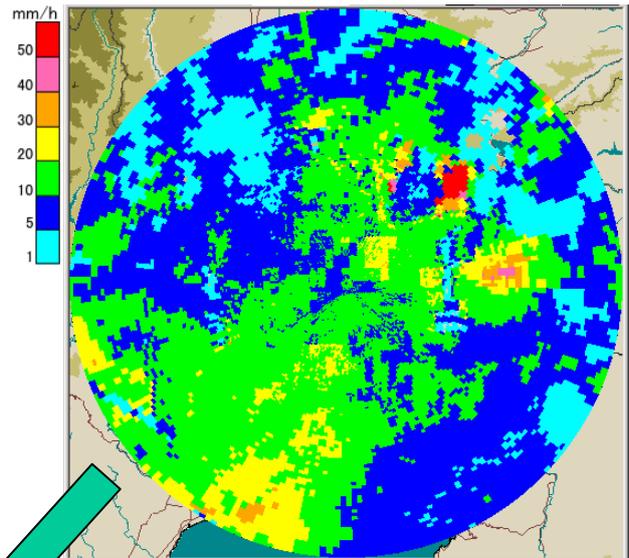
発達した低気圧通過に伴い平成21年3月13日(金)から14日(土)にかけて富士砂防事務所管内において降雨となりました。3月14日午前5時30分頃、富士山大沢川源頭域の調査工事現場(標高約2,100m)に設置してある監視カメラで、スラッシュ雪崩の発生を確認しました。

大沢川源頭域の下流側・大滝(標高約1,500m)に設置してある監視カメラの状況からは特に異常は確認はできませんので、スラッシュ雪崩は上流部で停止したものと推測されます。

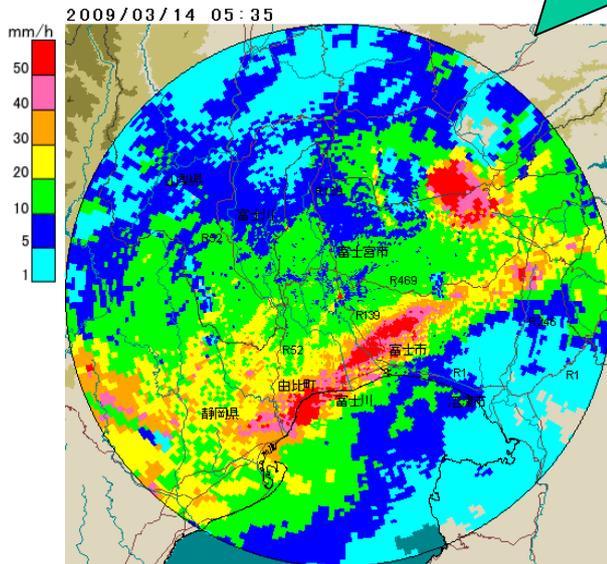
なお、その後新たなスラッシュ雪崩の発生は確認していません。(H21.3.17現在)



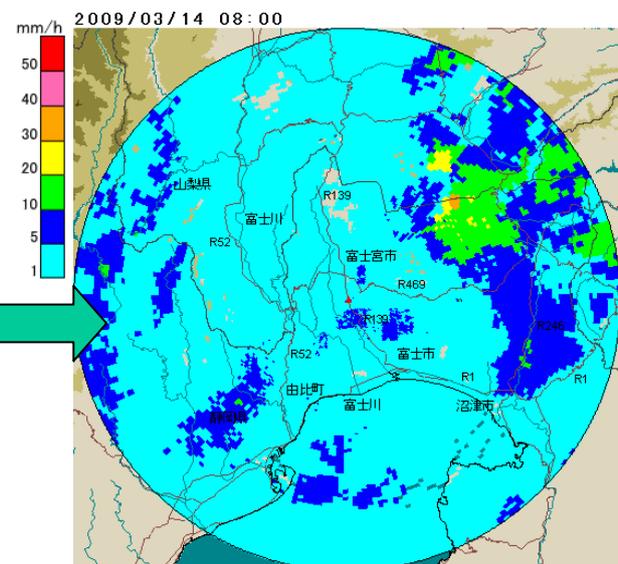
実況天気図(H21.3.14 3:00)



富士砂防レーダ画像H21.3.14 4:00



富士砂防レーダ画像 H21.3.14
5:35:00



富士砂防レーダ画像 H21.3.14 8:00

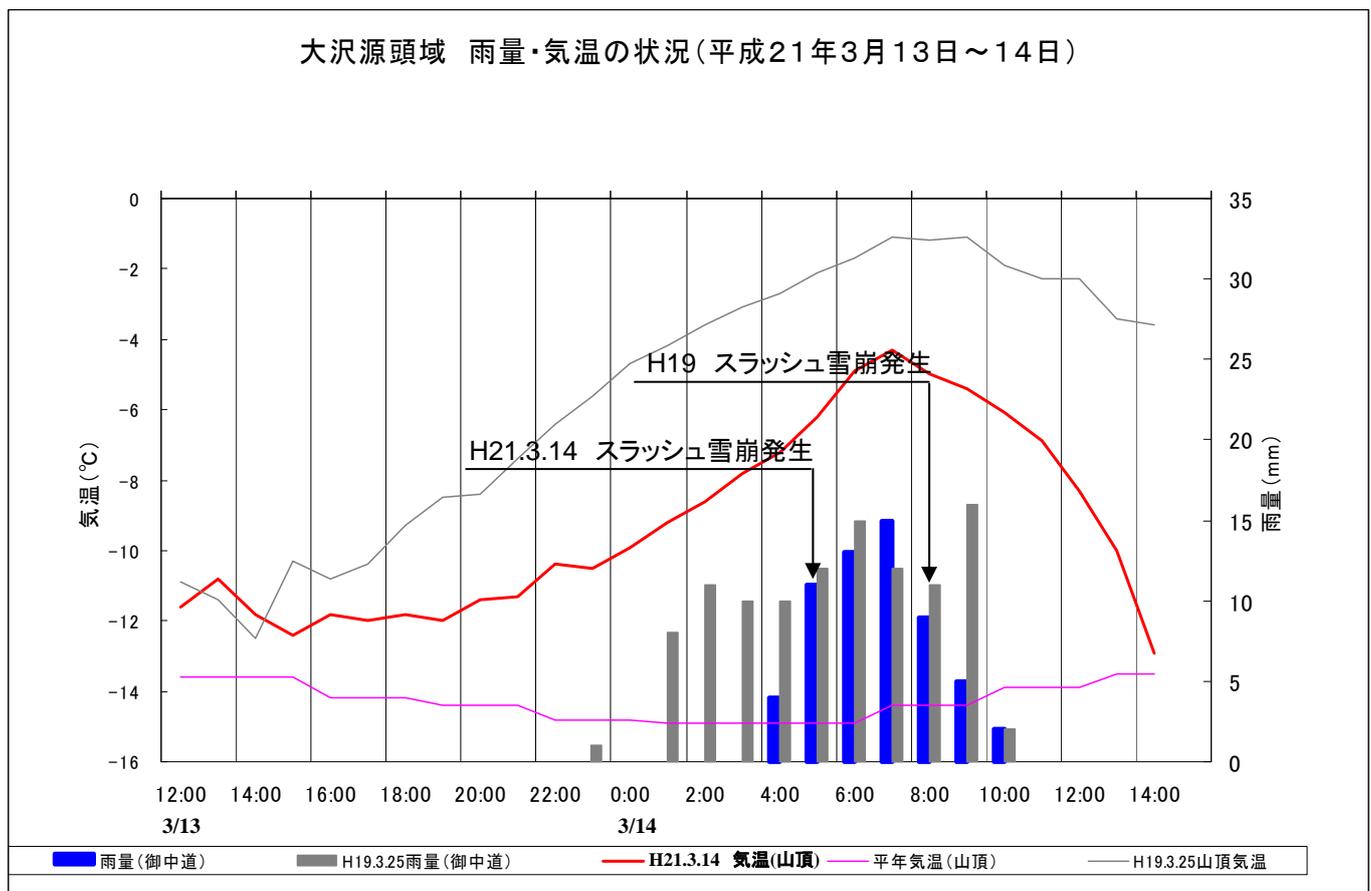
2. 気象・降雨状況

平成21年3月13日～14日にかけて、富士山頂の気温は13日の最低気温-12.4度(15:00)から14日7:00には-4.3度まで8.1度も上昇。(13日の日平均気温-11.3度に対して、14日10:00までの日平均気温は-6.5度で4.8度上昇)

降水量は富士砂防事務所 御中道観測所(標高:2350m)において14日7時に15mm/hを観測し、降り始めからの総雨量は59mm。(御中道観測所の降り始めは14日4:00であるが3:00以前は雪であったため記録されなかったと思われる。)

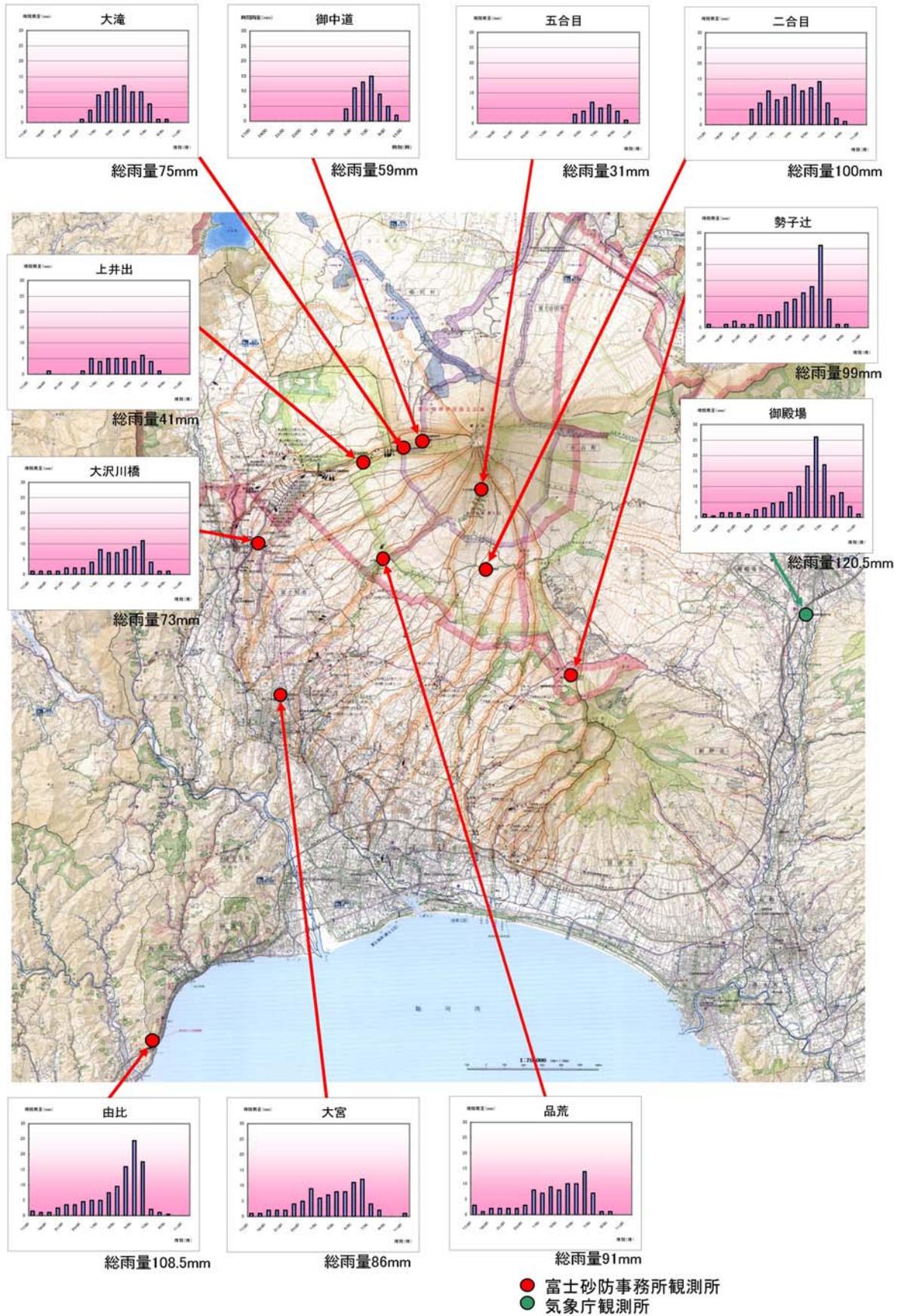
大宮観測所(標高190m)では降り始め13日14:00、降り終わり14日8:00で総雨量85mmを観測。

(1) 富士山頂気温と御中道観測所における雨量



青色の棒グラフが今回の雨量、赤いラインが気温です。また、平成19年3月のスラッシュ雪崩発生時(灰色棒グラフ:雨量、灰色折線グラフ:気温)と比較しています。

(2) 管内降雨状況



3. 監視カメラ等による調査結果

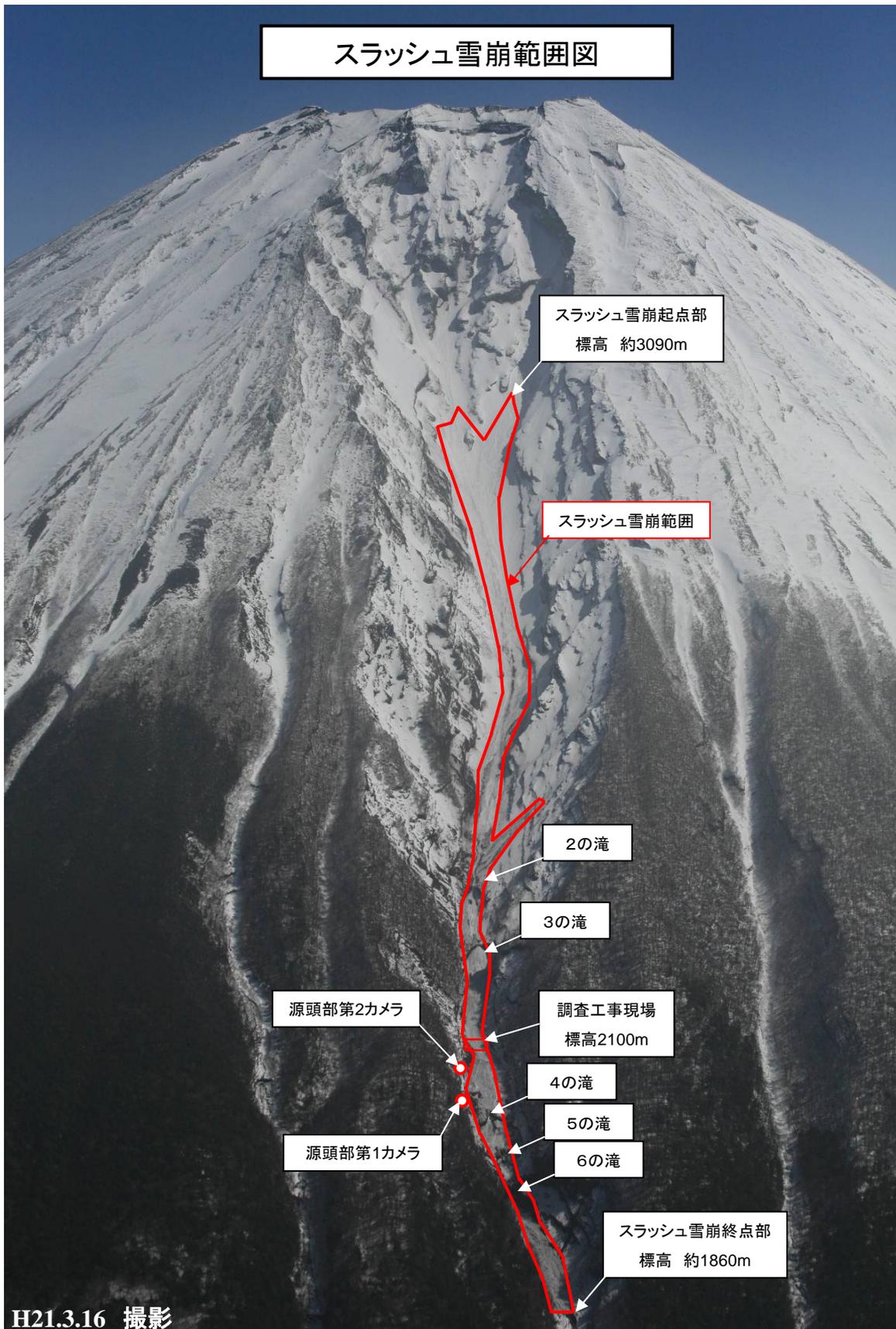
富士山大沢川源頭域の調査工事現場(標高2,100m)の監視カメラで、スラッシュ雪崩の発生を確認しました。しかし、下流側・大滝(標高1,500m)ほか、その他の監視カメラの状況からは特に異常は確認出来ませんでした。

富士山南側を監視カメラ、溪流調査及び空中写真撮影により確認しましたが、富士山スカイラインを含め下流域での被害は確認出来ませんでした。



(2)空中写真撮影

空中写真撮影の結果から、富士山大沢崩れで発生したスラッシュ雪崩は標高3,000m付近が発生の起点となり、標高1,800m付近まで流下したと推定されます。



4. 富士砂防事務所 対応経過

富士砂防事務所の対応は次の通りです。

日時	富士砂防事務所の対応
3月14日 5:00	注意体制
3月14日 5:30	スラッシュ雪崩発生
3月14日 12:00	溪流巡視点検開始
3月14日 13:00	記者発表
3月14日 14:00	目視調査開始
3月14日 16:00	溪流巡視点検、目視調査終了 富士砂防事務所管内において、下流域への被害がないことを確認
3月14日 17:00	注意体制解除

5. 報道状況

カメラがとらえたスラッシュ雪崩



源頭部調査工事現場



源頭部調査工事現場

スラッシュ雪崩発生前(上)、発生後(下)の映像(14日午前5時半ごろ、富士山標高2100付近(富士砂防事務所提供))

国土交通省富士砂防事務所は十四日、富士山西側斜面の大沢川源頭域(標高約二〇〇〇)付近で同日午前五時半ごろ、スラッシュ雪崩の発生を確認したと発表。源頭域の大沢崩れ対策調査工事現場の監視カメラで撮影した雪崩の映像を公開した。スラッシュ雪崩をカメラでとらえたのは平成十九年三月以来、スラッシュ雪崩は、大

富士山 砂防事務所公開

量の水を含んだ雪が流動する現象。雨量によっては流下の途中で土砂を巻き込みながら土石流となることもある。

同事務所によると、雪崩の発生は十三日から降り続いた雨と気温の上昇の影響とみられる。源頭域の支流にある大滝(標高約一五〇〇)に設置されている監視カメラで、は異常は確認されず、下流域に被害がなかった。

静岡新聞平成21年3月15日(朝刊)
静岡新聞社編集局調査部許諾済み

強風伊豆で船便欠航

富士山でスラッシュ雪崩

日本海を発達しながら二・五に達した。北東に進んだ低気圧。この荒天で、清水の影響で、静岡県内は、土肥間のフェリー、土十四日明け方から終日、一時雨を伴った。肥前、沼津を連絡する高速船、熱海と伊豆大島の強い風が吹く。豆大島を結ぶジェット船が、海上も大しげとな。船がいずれも全便欠航。伊豆地区の船の便に欠航が相次いだ。光船は七便中五便が欠航となった。JR御殿場線は、強風のため午

中日新聞平成21年3月15日(朝刊)
この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています

前中、御殿場―足柄間の上下線四本を、東海道線三島―沼津間でも下り一本が運休、その後も遅れが出た。